

校長室より

「天空高き」



第90号



平成28年12月19日

支え合うー上映会を終えてー

「山口県ひとづくり財団」助成事業によるキャリア教育講演会で、映画「世界でいちばん美しい村」の先行上映会が行われました。

今回は宮本中学校長とのご縁もあり、写真家・フィクション作家で、この映画を監督した石川梵監督にもお越しいただき、なぜこの映画を製作したのかなど、貴重なお話を聞くことが出来ました。

昨年4月25日に発生したマグニチュード(M)7.8のネパール大地震によって、震源地に近い人口4千人のラブラック村の家屋等は壊滅的な打撃を受けました。

日本も5年前に東北大地震が発生し、今も大きな傷跡を残し、復興もいまだ半ばですが、この映画からは、ネパール大地震の復興の様子を記録したものとは異なるものを感じました。

映像の至る所で、険しくも崇高なヒマラヤが出てきます。そして、厳しい自然条件下で復興に立ち向かうラブラック村の人々。今の日本の生活と比べると何もないように思えるラブラックの村の人たちは、家族を大切に、そして村人たちがお互いに助け合いながら、懸命に今を生きています。

映画の終わり近くで、少女を地震で亡くした家族が村を離れ、大きな町や首都カトマンズで暮らしても、最後にはラブラック村に帰って来るシーンがありました。なぜ彼らは故郷に帰ってきたのでしょうか。石川監督がこの映画のタイトルをなぜ、「世界でいちばん美しい村」と命名したのでしょうか。

世界でいちばん美しい村には、いま日本で失われつつある、目には見えない大事なものがそこにはいっぱい映し出されていたような気がしました。



「明日世界が滅びるとしても、今日私はリンゴの木を植える」マルティン・ルター
たとえ、かけがえのないものを失くしたとしても、それでも毎日を生きる。厳しさに耐えて生きる。

石川監督は、映画を通じて世界に訴え、かつて「世界一美しい」といわれた「天空の村ラブラック」の人々がまた、笑顔で一緒に暮らすことができるようになるのが、このプロジェクトの最終目標だと言われています。この目標が一刻も早く実現することを皆さんと共に願うとともに、今の皆さんにも何かお手伝いできることがたくさんあるのではないかと思います。

未来を切り拓く力をつけるーICTの活用ー

校内を巡回していると、中学校を中心に電子黒板を使った授業が展開されています。

夏休みにICT関係の工事が終了しました。

中学校全教室に電子黒板（プロジェクターなどを利用して黒板などの上にコンピューター画面を投影できるだけでなく、タッチパネルと同様に、ボード上での操作（付属ペンなどを使用した黒板同様の書き込みなど）をコンピューター上に入力できる）と移動可能な電子黒板も4台購入しました。そして書画カメラ（教科書等が拡大可能）7台も準備されました。あらたにタブレット40台が完備したICT教室も整備されました。



ICT（Information and Communication Technology）とは、情報・通信に関連する技術一般の総称で、「情報通信技術」と訳されています。授業へのICT活用で皆さんの学習意欲や学力が向上したという事例も数多く発表されています。例えばゲーム感覚でドリルができたり、宿題を提出できたりすれば、楽しんで勉強できる。また、知りたいと思ったモノに対してその場でアクセスできるということは、学習意欲を満足させる意味で効果的だろうと思います。

将来的には、昔でいうところの「読み書きそろばん」と同じレベルに、ITスキル（技能）／リテラシー（知識・能力）が来る社会が訪れると思います。ICTが我々の生活の中でどのような役割を果たし、それをどのように活用するかが大事になります。

陸橋ー学園を見渡して54年間ー

昭和39年卒業アルバムより



この陸橋からは高水学園を一望に収めることができます。また、学園の四季の移り変わりを日々観察することができます。そして、尾津の蓮田や瀬戸内海に浮かぶ小



島、空気が澄んでいるときには四国の霊峰石鎚山も眺めることができます。第7代校長の山本眞喜雄先生は、元旦にはここで毎年初日の出を拝んでおられました。卒業アルバムのカラス写真等でもここは当時から人気スポットになっています。私も大好きな場所の一つで、憩いの場所でもあります。

この陸橋は昭和37年に完工しました。今は岩国短大と中・高等学校を橋渡ししています。しかし、当時は岩国短期大学（昭和56年設立）は設立されておらず、今の岩国短大の敷地には、体育館兼講堂・木造校舎4棟がありました。木造校舎4棟には普通科・商業科と付属中の教室と図書室・理科室・簿記室・タイプ室・吹奏楽室などがありました。第一校舎（昭和37年完成）には、商業科・家政科教室と音楽室・商品実験室・被服、調理室・理科室などがありました。ですから、この陸橋は中学・高校生が授業や学校行事、部活動での利用のために頻繁に使ってきました。だからこの陸橋は生徒の安全安心のために頑強につくられ、今もしっかり我々を見守ってくれています。

神ってる！－2016流行語大賞－

その年話題となった新語・流行語を決定する、年末恒例の2016新語・流行語大賞が12月1日に発表され、「神ってる」が年間大賞に選ばれました。

プロ野球で2試合連続サヨナラホームランを放った広島カープの鈴木選手を緒方監督が「神ってる」と形容して評し、注目を集めていました。今年広島カープは25年ぶりにセリーグ優勝を果たしましたので、その話題性も加味して、個人的には大賞にふさわしいと思いました。皆さんはどうですか。

同賞は1年の間に軽妙に世相を表現している“言葉”、広く大衆の目や口、耳をにぎわせた“言葉”から選出されます。

過去10年間の流行語大賞を前ページに掲載しましたが、多くはスポーツ・政治・お笑いの世界からです。それだけ皆さんの関心度が高いということでしょうか。

2006年「イナバウアー」「品格」
2007年「どげんかせんといかん」「ハニカミ王子」
2008年「アラフォー」「グ～！」
2009年「政権交代」
2010年「ゲゲゲの」
2011年「なでしこジャパン」
2012年「ワイルドだろお」
2013年「今でしょ!」「お・も・て・な・し」
「じゃえじゃえ」「倍返し」
2014年「ダメよ～ダメダメ」「集団的自衛権」
2015年「爆買い」「トリプルスリー」

24節気

大雪（たいせつ）12月7日頃 朝夕には池や川に氷を見るようになる。大地の霜柱を踏むのもこの頃から。山々は雪の衣を纏って冬の姿となる頃。

冬至（とうじ）12月22日頃 一年中で最も夜の長い日。この日より日が伸び始めることから、古くはこの日を年の始点と考えられた。冬至南瓜や柚湯の慣習が残る日。

第8回「わたしの志」 作文最優秀作品

山口県教育 12月号

最優秀

山口県教育委員会教育長賞

出会い

私の夢を決定づけた人



萩市立萩西中学校 三年

田村 眞子

私は、小さい頃からずっと、医療関係の職業に就きたいと思っていました。自分や家族が何度か入院した時に患者や家族に献身的に接する病院のスタッフの姿を見たり、持病のため毎月何度も通院する祖母から聞くかかりつけのお医者さんの優しく、丁寧な対応について話を聞いたりするうちに、「医療関係の職業に就きたい」「人の役に立ちたい」というぼんやりとした夢を抱いていました。それが、医師なのか、薬剤師なのか、看護師なのか、はつきりしなかった私に、転機となる出会いがありました。

それは、ロンドンでのT先生との出会いです。私は、親の仕事の都合で、中学一年から二年間を英国のロンドンで過ごしました。海外で生活することが初めてとなる私や家族にとって、ロンドンでの二年間の生活は、毎日が新鮮で刺激的であると同時に、不安だらけの日々でもありました。特に、病気になる時には、さらに不安が増しました。

渡英して半年が過ぎた頃、私は、慣れない環境と気候のせいか風邪をひきました。英国の医療制度は日本と異なり、国営の医療機関で受ける治療は無料ですが、予約が必要で、体調が悪いからといって、すぐにその日に診療を受け付

けてくれることはめったになく、何日も待たされるのがよくあると聞いていました。そのため、きつとすぐには診察してもらえないだろうと思いい、私達は栄養のある食事と十分な睡眠を取れば治るのではと考え、しばらく自宅で様子をみることを選びました。しかし、それは大きな間違いでした。私の風邪がうつったのです。結局、家族全員で体調を崩し、ダウンすることになりました。さすがに、このままではいけないと思つた母は、私達を有料の日本人向けのクリニックに連れて行ってくれました。そこで、診察してくださったのが、T先生でした。

T先生は初めて受診する私達の既往歴や風邪の症状を丁寧に聞き、それぞれの症状に併せて薬を処方し、一週間後に再度受診するように言われました。一週間後、具合がよくなった私達家族にT先生は、日本と英国の医療事情の違いからロンドンでの生活情報まで、英国について、時折、英語を交えながら、いろいろと教えてくださいました。日本の病院のイメージとは違う建物や家具のせいもあるかもしれませんが、T先生はとても親しみやすく、話しやすく、私の抱いていたお医者さんのイメージとは全く違いました。その後も、予防接種や健康診断などでお会いする機会が何度かありました。その度に、中学生の私にも理解できるように、平易な言葉で日本と英国の違いについて説明してくださったり、私達の質問に丁寧に答えてくださったりしました。いつしか、私は、英語を自由自在に操り、日英の医療についての知識が深いT先生に憧れ、先生のような医師になりたいと思うようになりました。そして、すっかりT先生のファンになりました。医師の仕事に興味が湧き、インターネットでいろいろ調べるようになりました。

T先生について検索し、先生の執筆された記事を見つけ、読んだこともありました。先生は、離島医療に携わった経験があり、その記事では、「離島地域へ赴任する際に要求されること―医師として初期の研修の中で学ぶべき課題」について書かれ、そこで、大別して、「社会性、医療技術、生涯学習」の三点を挙げ、意見を述べていらつしやいました。日々進化する「医療技術」を医師として身につけること、そして、そのために研修会や講習会に参加し、「生涯学習」し続けることが必要であることは何となく想像できました。私が驚いたのは「社会性」の部分です。「医療現場はホテル業界以上の屈指のサービス業である」という個人見解をお持ちで、患者さんとの人間関係はもちろん、職場での人間関係構築にも重きを置かれ、「医師患者関係、医師職員関係、いずれにおいても、相手の立場に身を投じる姿勢が要求されると思われる」と述べていらつしやいました。この記事を読み、私達が心地よく感じたT先生の患者へのおもてなしの心が理解できたような気がしました。

私は、今、総合診療医になりたいと思っています。ロンドンの病院でのT先生の担当が総合診療科であったこともありますが、新しく日本で導入される制度でもあるからです。欧米では、従来から、総合医や家庭医が医療制度の一部として確立されていたようですが、日本では、それを規定する資格や身分がなく、二〇二〇年に最初の総合診療専門医が認定される予定だそうです。

総合診療医となり、T先生のように離島などの地域医療に従事したり、英語を活かして海外で診療したりしたいというのが今の私の夢です。夢を叶えるためには、相当な努力が必要ですが、志を忘れず、目標に向け、頑張りたいと思います。

「志」は、世の中や自分自身への希望や信頼があってこそ持てるものです。心が元気になるよう体験をたくさんしてください。 山口市立川西中 久保田裕三校長講評